

スペシャルすまいる

No. 55
2018
APRIL

NIKKO City Council of
Social Welfare

Public Relations Magazine "SPECIAL SMILE" of Nikko-Shakyo



第11回全国校区・小地域福祉活動サミット in NIKKOの様子

全国各地から多くの方々に参加いただき、全国の事例から学びながら相互に交流を深める良い機会となりました。

写真は日本書道師範・日光観光大使の涼風花さんが‘誇響’（こきょう）を書き上げたところです。



この広報紙の発行にはみなさまからご協力いただきました赤い羽根共同募金の配分金が使用されています。

共働とは・・・

協力して動くという関係から、お互いの役割と責任を認め合い、相互関係を深めながら「共に働く」、「行動する」、「新しい関係を築いていく」という意味をこめて「共働」を使用しています。

CONTENTS

- 校区サミット報告 2～3ページ
- ふくまち地区別活動報告
(藤原、三依、栗山、湯西川地区) 4～5ページ
- 社会福祉大会報告 6ページ
- 社会福祉大会報告 7ページ
- 共同募金報告 7ページ
- 寄付報告 7ページ
- 「支えあい」自治会活動久次良町シリーズ③ 8ページ

全国校区・小地域福祉活動サミット



去る11月30日(木)～12月1日(金)、藤原総合文化会館・きぬ川ホテル三日月を会場に、東日本で初めてとなる「第11回全国校区・小地域福祉活動サミットin NIKKO」を開催しました。

当日は、関係者を含め、全国各地から1,000名を超える方々にご参加いただき、地元の事例をはじめ、全国の事例から学びながら、相互に交流を深める機会となりました。そのサミットの一部をご報告いたします。

11月30日

12月1日

12:30～12:45 ○オープニング
 12:45～13:45 ①基調講演
 14:15～17:15 ②分科会
 18:00～22:00 ○交流会

09:00～10:45 ③シンポジウム
 10:45～11:45 ④まとめ
 11:45～12:00 ⑤クロージング

①基調講演

小地域福祉活動の原点



基調講演では、サミットの創始者である関西学院大学名誉教授・関東学院大学客員教授の牧里先生より、「このサミットを始めた経緯」、「現在の時代背景」、「住民の主体による小地域活動の意義」、「小地域活動の素晴らしさ」、「このサミットで感じて欲しいこと」等について講話がありました。

次の分科会への導入として、「住民主体」による小地域福祉活動や支え合いの重要性を再認識しました。



②分科会

多彩な 10テーマの分科会

基調講演の後は、10の多様なテーマに分かれての分科会。地元日光市や栃木県の事例を中心に、全国の先進事例などの取組から学ぶ機会となりました。グループワーク(ワークショップ)を取り入れた企画が多かったため、参加者同士、活発な意見交換なども行われていました。

また、サミットでは初となるスタディツアーでの企画もありました。

【実施した分科会テーマ】

- 居場所
- 中山間地域のまちおこし
- 子どもの貧困
- 認知症
- 共生社会・参加
- 災害・防災
- 多様な連携・協働
- 福祉教育
- 新たな地域づくり
- 住民主体の場づくり



③シンポジウム 小地域活動の活性化を探る

1日目の基調講演、分科会で感じ、議論してきたことを踏まえ、関西学院大学の藤井 博志教授をコーディネーターに、実践者である3名のシンポジスト、コメンテーターの牧里名誉教授と、小地域福祉活動における課題とその解決策について議論を深めました。

地元日光市からは久次良町の宮地 ゆみ副会長による自治会を中心とする地縁型活動の取組、磯長台の福祉を考えるつどい（大阪府太子町）の佐藤 貞良代表による地縁型活動とボランティアな住民のテーマ型活動との連携による取組、たまり場・たろう（茨城県筑西市）の小松崎 登美子代表によるテーマ型活動の取組など、それぞれに特徴あるタイプの実践事例を共有しながら、小地域福祉活動における課題を抽出し、その課題解決の方策を探りました。

事例から紐解く小地域活動は、「住民として楽しむ活動」「信頼関係を重要視」「地域への愛着、誇りがある」などの共通点が見られ、活動活性化のためのヒントを得る機会となりました。



④まとめ 次へ！未来へ！つなぐ“こきょう 誇響”

まず、実行委員会の企画運営委員より1日目の各分科会の報告があり、「小地域における福祉活動は、楽しい活動であること」を参加者全員で共有しました。

そして、この2日間のサミットをふりかえり、この活動を広げていくために“誇響(こきょう)”という言葉で締めくくりました。

最後は、宝珠道心太鼓の演奏をバックに、日本書道師範・日光観光大使の涼 風花さんが“誇響”の文字を書き上げました。



⑤クロージング 今回はサミット誕生の地

前回(第10回)、愛知県岡崎市よりフラッグの引き継ぎを受け、無事、成功裡のうちに日光市での第11回サミットを終えることができました。

次回の開催地は「大阪府豊中市」です。豊中市は、サミットの誕生の地(第1回開催地)です。クロージングでは、斎藤 文夫会長より豊中市へフラッグが引き継がれました。



このサミットの報告書は、ホームページからダウンロードできます。(https://nikkosummit.jimdo.com/)

4地区ふくまち委員会(藤原)



ずっと住んでいたい街「ふじはら」 ～誰もが安心して暮らせる地域をめざして～

藤原地区ふくまち委員会では、災害に対する不安やその備えについての課題が挙げられていたため、今年度は地区独自テーマの1つである「災害に備える」を重点的に取り組みました。

防災研修の周知やアンケート調査を実施し、現状を把握するとともに防災に対する意識の啓発を図りました。



H29年9月に行われた『地域福祉防災研修会』の様子

防災研修については、自治会や民生委員・児童委員、消防団等多くの方が参加し、防災マップの地域福祉への活用方法や助け合いの大切さを学ぶことができました。

アンケートは委員会で項目を検討・作成し、藤原地区内の小中学校の保護者の方に協力していただきました。今後も高齢者世帯や障がいのある方等への調査も実施し、アンケートで見えてきた課題を解決するため、協議を進めるとともに地域への情報発信も行っていきたいと考えています。



ともに支えあい、安心して 心豊かに暮らせるまちをめざして

三依地区は今年、高齢化率が60%を超えました。

過疎・高齢化が進む中、地域交流の減少や独居高齢者・高齢者世帯の増加により“困りごと”が増えています。そういった課題等の解決に向けて、自治会、民生委員・児童委員、地域おこし協力隊、地域包括支援センターなど各機関が集まる「ふくまち委員会」にて、福祉課題の解決に向けた取り組みについて話し合いを行っています。



H29年10月に行われた第2回みより買物ツアー(昼食)の様子

その中で現在、関係機関の協力を得て実施しているのが、「三依お買物ツアー」!!

買物に不便を感じている方や外出する機会が少なく閉じこもりがちの方が増えているなか、外出する機会とともに住民同士の交流の場として実施。定期的開催することにより、参加者同士が話せる場となっており、日頃の声かけも増え、支え合いにもつながっています。

今後も、ともに支えあい、安心して心豊かに暮らせるまちづくりを様々な方々と協力し、進めていきます。

三依・栗山・湯西川の経過報告



「福祉のまちづくり」から 「福祉でまちづくり」へ

クリヤマルシェ
2017

栗山地区・湯西川地区では、今年度から住民参加のまちづくりとしてクリヤマルシェ事業を旧栗山中学校にて開催しました。この事業は栗山地区社会福祉協議会、住民、ボランティア団体、ふくまち委員会、行政、公民館、社協などで構成されるクリヤマルシェ2017実行委員会が中心となって住民同士の交流促進、特技や趣味を活かしたまちづくりの参加、栗山の魅力を外部に発信するなどの目的をもっています。

開催当日はあいにくの雨となりましたが紅葉彩る季節の中、栗山地区内・外から39の出店者が集まり、400名以上の方が来場されるなどたいへん賑やかなマルシェとなりました！！

ご来場された方からは「栗山の自然がすごく綺麗。」「いろんな人と交流できて楽しかった。」「栗山のあったかい人達と交流できて、ますます栗山が好きになりました。」という声をいただき、地域内外から「また、来年もやってほしい！！」「来年は出店してみたい」という声が多数寄せられるなど、様々なところで良い反応があり、来年の実施に向けての期待が高まっています。

栗山地区・湯西川地区の活動は“福祉のまちづくり”から“福祉でまちづくり”へ。

これからも誰もが安心して暮らすことのできる地域づくり、一人ひとりが生き活きと輝ける地域づくり、そして栗山・湯西川地区が元気になる地域づくりを一体的にこれからも推進していきます！！

開催までの流れ



実行委員会の会議
6月～11月(全7回)



手作りのチラシ作成 出店者の大募集！！



クリヤマルシェ開催
地域の魅力が大集合！



会場の環境整備と準備
雨の中の草刈り



第12回 日光市社会福祉大会開催

2月3日(土)、今市文化会館大ホールにおいて、第12回日光市社会福祉大会が開催されました。この大会は、私たちが住みなれた地域で共に、安心して暮らしていくために、積極的な取り組みを誓うとともに、社会福祉の推進に功績のあった方々への表彰・感謝を行いました。

記念講演では、新潟産業大学経済学部准教授の蓮池薫さんに「夢と絆を求めて～翻弄された運命の中で～」と題して、講演をいただきました。

今大会は約800人もの方にご参加いただき、盛会のうちに終了しました。

記念講演



日光市社会福祉協議会 会長表彰・感謝

(順不同・敬称略)

表彰

社会福祉施設・団体従事者

安野美紀	松本恵子
藤井佳子	林山由美子
手塚美智子	内山美恵子
今井千春	湯澤友貴史
佐久間俊行	吉成勇一
霜山幸子	和泉永好
大竹敬尚	八木澤有知
井本中杏	竹之内佳子
佐藤隆子	関谷藤水
雪田洋美	佐藤本
須田有希	橋
佐藤夏	
星暢子	

感謝

自治会長

星野	野崎	英信	顕満	阿久津	英正	男弘
山宇	梶羽	勝順	満一	藤久	正良	弘徹
赤吉	羽新	順道	一男	阿久	良光	作昇
吉神	原山	道光	晴雄	和手	信光	也厚
鷹秋	元野	信一	明男	福齋	和雄	透彦
平沼	尾野	英一	雄郎	齋新	一	三德
沼沼	尾木	敏文	弘雄	薄荒	伸	薫崇
青山	本田	洋光	一男	大手	鍋久	一男
福齋	藤箸	隆一	薫治	佐手	勝吉	吾昭
鷹高	橋岸	俊卓	治夫	山齋	榮好	一人
根飯	島	英	夫男	沼阿		
阿久津				山遠		

表彰

ボランティア・団体等

NPO 結婚を考える会「ありがとう」
日光市読書ボランティア連絡会

表彰



感謝



いつまでも安心して暮らせるまちを目指して 自分達でできることから

★こんな事がありました

近所に住む一人暮らしの高齢者の様子がいつもと違うと感じたホットくじら隊員は、民生委員児童委員に連絡。連絡を受けた民生委員児童委員は、高齢者を訪問して状況を確認しました。また地域包括支援センターにも連絡し、専門職の支援も始まりました。現在その高齢者は、住み慣れたこのまちで安心して暮らしています。

第3回目は… ホットくじら隊

行っていることは、住む者同士のさりげない見守り活動です。

「組」ごとに1名ずつ隊員がいます。いつもと違う、何かおかしいと感じる方がいたら、自治会役員または民生委員児童委員に連絡します。

たとえばこんなとき・・・

- 新聞受けに新聞がたまっている
- 夜になっても電気がつかない
- 朝になっても雨戸が開かない など

隊員から連絡が入った自治会役員や民生委員児童委員は、その方を訪問して状況を確認します。隊員は専門的な資格を持たない守秘義務厳守の女性達です。身近な“お隣さん”が優しく見守っています。



自治会長
薄井 和彦 さん

自治会役員や民生委員児童委員の見守り活動だけでは、どうしても行き届かない部分がある。それをどうしたらよいか自治会の中で話し合いました。

そして平成25年11月に「ホットくじら隊」を発足しました。何か特別なことをしたり、毎日見守るということではなく、気づいたことがあったときの連絡体制をつくりました。

隊員には任期はありません。できるだけ続けてほしいと願っています。

大切なことは、日頃から何気なく会話を交わすこと、話しやすい雰囲気をつくることだと思います。



民生委員児童委員

篠原 禎子さん、齋藤 まり子さん(左から)

民生委員児童委員にもわからない方がたくさんいます。そんなときに隊員から話を聞いたり、情報

聞いて
みました!

や連絡がいただけるためとても助かっています。これまで人とあまり話をしながらない高齢者が「ご苦労様」と話しかけてくれたときは、とても嬉しくなりました。また、朝起きたらカーテンを開けて近所に知らせることで、心配をかけないようにしている高齢者もいます。

“見守ってあげる”“見守ってもらう”関係ではなく、お互い様のつながりを感じることでできる関係が大切だと思います。

私たちは、これからも皆さんが安心して生活できるように見守っていきたく思いますので、よろしくお願いします。



ホットくじら隊員 石原 孝子さん

発足当時からホットくじら隊員として活動しています。

自治会役員の方から依頼され、特別何かをするわけではなく、気づいたこと

聞いて
みました!

があれば連絡するだけなら自分にもできると思い引き受けました。近所に住んでいるからわかること、気づけることがあります。隣近所で気にかけて合い、声かけ合うことで安心できると思います。

これからも、地域のお役に立てたらと思っています。

『ホットくじら隊員証』

〇組【氏名】

久次良町自治会

ホットくじら隊の 隊員証

裏面は連絡先があり、バウチされています。

財布に入る大きさで、隊員はいつも持ち歩いています。